

これまでも、これからも、ずっと在宅

かんたき通信



感染予防対策
実施中！

私たちの
の

地域密着型サービス
ご存知ですか？

2024年4月号



『看護小規模多機能のご利用ケース事例をご紹介します』



「本人、ご家族に寄り添うターミナルケア」～馴染みの自宅で最期を迎えたい～

91歳 女性 区変中 サ高住入所中、遠隔地の長男、長女が来訪

●診断

多臓器不全
骨粗しょう症
脳梗塞後遺症
廃用症候群
認知症



●症状・処置

ほぼベッドで生活
生活行為全般要介助
経口摂取困難に
なりつつある

●ご本人の意向

意思は表情にて読み取る
顔を手で覆い、
不安な表情が強い

●経過

食事が摂れなくなり体力低下
主治医より「延命治療なら胃ろう造設
必要」、サ高住より「今の状態では看れ
ない」と、入院をすすめられるが、
ご家族が「手術の体力はない」と判断し
最期に自宅に戻る希望を出される

在宅療養開始のため

『看護小規模を選択される』

⇒看取りに向け、主治医変更となる



利用開始時

ご家族と話し合い、「泊り」を入れて必要なケアを確認する。
食事は進まず点滴にて対応。ご家族との面会時間を大事
にし、スタッフも声掛けを多く持つようにする。

体調の改善は見られないが、表情は
穏やかになり、顔を覆う動作はなくなる



1週間後

- 利用開始後、初めて自宅に行ってみる

本人、自宅がわかった様子で、表情が明るくなり、
周りを見渡される。
その日は施設に戻るが、本人の表情をみてご家族
の自宅で過ごす決意を固める

紹介動画
見てね！

看護小規模は

退院直後で状態が不安定な方、在宅での看取り支援
など、ご自宅での療養生活を支えるサービスです。



そして10日目

ご家族は思いを固め、自宅での受け入れ準備実施。
しかし、自宅での療養生活までは叶わず施設にて
家族に見守られつつ息を引き取られる。

自宅での療養生活は叶いませんでしたが、
ご家族は「あんな笑顔が見れて良い選択ができた」
と喜んでおられました。家族の不安にも寄り添い、
ご本人の笑顔も見ることが出来、私たちもとても
やりがいがある仕事ことができました。



看護小規模多機能ふくしのまち上尾
上尾市寺丁目北10-3



☎ 048-725-6662
FAX 048-725-6664

担当 金田(所長)
矢島(CM)



看護小規模

連携



主治医